

主な用語の解説

知って
おこう!

あ)

• アルファ化米 (あるふぁかまい)

お米を炊き上げた後、乾燥させたもの。お湯か水を注ぐだけで、煮炊きせずにご飯ができあがる。軽量でコンパクトなため非常食や保存食として優れている。食物アレルギーに配慮した製品もある。磐田市では、災害時自宅から非常食を持ち出せない人のために約10万食を備蓄。

• いわたホットライン

携帯電話やパソコンのメールを利用し、防災情報のほか、さまざまな情報を受け取ることができる。

お問い合わせ 情報政策課：0538-37-4818

参照 登録手順

か)

• 警報 (けいほう)

重大な災害が起こる恐れのあるときに、概ね3～6時間前に発表。ただし、短時間の強い雨に関する大雨警報・洪水警報については概ね2～3時間前に発表。

参照 情報No.3、風水害No.1、風水害No.2、津波No.1

さ)

• 災害図上訓練 (DIG) (さいがいつじょうくんれん)

参加者が大きな地図に避難場所や防災倉庫の位置、危険箇所などを書き込みながら、地域の災害対策について話し合うもの。DIGはその手法の一つであり、ゲーム感覚で災害時の対応を考えることができる。

• 指定緊急避難場所 (していきんきゅうひなんばしよ)

切迫した災害から一時的に身を守るために避難する場所で、津波、洪水、土砂災害の種類ごとに指定されています。

• 指定避難所 (していひなんじよ)

地震や津波などにより、自宅が被災して生活することができない人が避難生活をする場所。主に学校等の公共施設が各地区程度に指定されている。避難者により運営組織を編成して避難生活を運営する。

• 心的外傷後ストレス障害 (PTSD)

(しんてきがいしょうごすとれすしょうがい)

震災などの強烈なショック体験や強い精神的ストレスが心の傷となって、時間がたってからも恐怖感、無力感、悪夢、眠れないなどのさまざまなストレス障害を引き起こす疾患。(このようなつらい症状が続いているときは、専門機関に相談してください。)

• ソーシャル・ネットワーキング・システム (SNS)

インターネット上で共同社会を形成し、利用者同士がさまざまな形で意見を分かち合うことができる会員制サービス。

た)

• 第3次地震被害想定 (だい3じじしんひがいそうてい)

阪神・淡路大震災から得られた教訓や災害対策の現状及び研究成果などを被害想定に反映し、平成10年度から12年度までの3か年をかけ策定。

参照 地震No.2

• 第4次地震被害想定レベル1 (だい4じじしんひがいそうていレベル1)

100年～150年に一度の頻度で発生し、大きな被害をもたらす地震。

参照 地震No.2

• 第4次地震被害想定レベル2 (だい4じじしんひがいそうていレベル2)

千年～数千年に一度の頻度で発生し、甚大な被害をもたらす地震。

参照 地震No.2

• 注意報 (ちゅういほう)

災害が起こる恐れのあるときに発表。短時間の強い雨に関する大雨注意報・洪水注意報については概ね2～3時間前に発表。

参照 情報No.3、風水害No.1、風水害No.2、津波No.1

• 東海地震 (とうかいじしん)

静岡県の中西部を震源域に発生すると考えられている地震。

参照 地震No.1

• 東南海地震 (とうなんかいじしん)

愛知県沖から三重県沖を震源として発生すると考えられている地震。

参照 地震No.1

• 特別警報 (とくべつけいほう)

数十年に一度の雨量や、雪量、風が吹く等が予想される場合に発表する。(津波については、3メートルを超えると予想される場合、大津波警報を特別警報扱いとする。)

参照 情報No.3、風水害No.1、津波No.1

• 土砂災害警戒情報 (どしゃさいがいけいかいじょうほう)

大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、静岡県と静岡地方気象台が共同で発表する防災情報です。

参照 風水害No.1

• トラフ

海底の溝。

な)

• 南海地震 (なんかいじしん)

和歌山県沖から高知県沖にかけて発生すると考えられている地震。

参照 地震No.3

• 南海トラフ地震 (なんかいとらふじしん)

駿河湾から九州東方沖まで続く深さ4,000メートル級の海底の溝を震源とした地震。(東海、東南海、南海の3つが同時に発生するマグニチュード9クラスの地震を南海トラフ巨大地震と呼ぶ。)

参照 地震No.1

は)

• 避難所運営ゲーム (HUG) (ひなんじょうんえいげーむ)

避難所の運営を模擬体験するもので、平成19年に静岡県が開発した。指定避難所の体育館や教室に見立てた大きな紙に、避難者に見立てたカードを配置していき、カードをどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応していくかを考えることができる。

• 避難場所 (ひなんばしよ)

自主防災会が定めた公園や広場、公会堂などの安全な場所で、大規模災害発生時にご近所の皆さんが避難や集合に使う場所。

• 防災・減災 (ぼうさい・げんさい)

防災とは、災害を未然に防止し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ、災害の復旧を図る取り組み。しかし、災害による被害を完全になくすことは不可能で、地域の防災力を上回る災害が起こった時、その被害を最小限に食い止めるための取り組みを減災という。